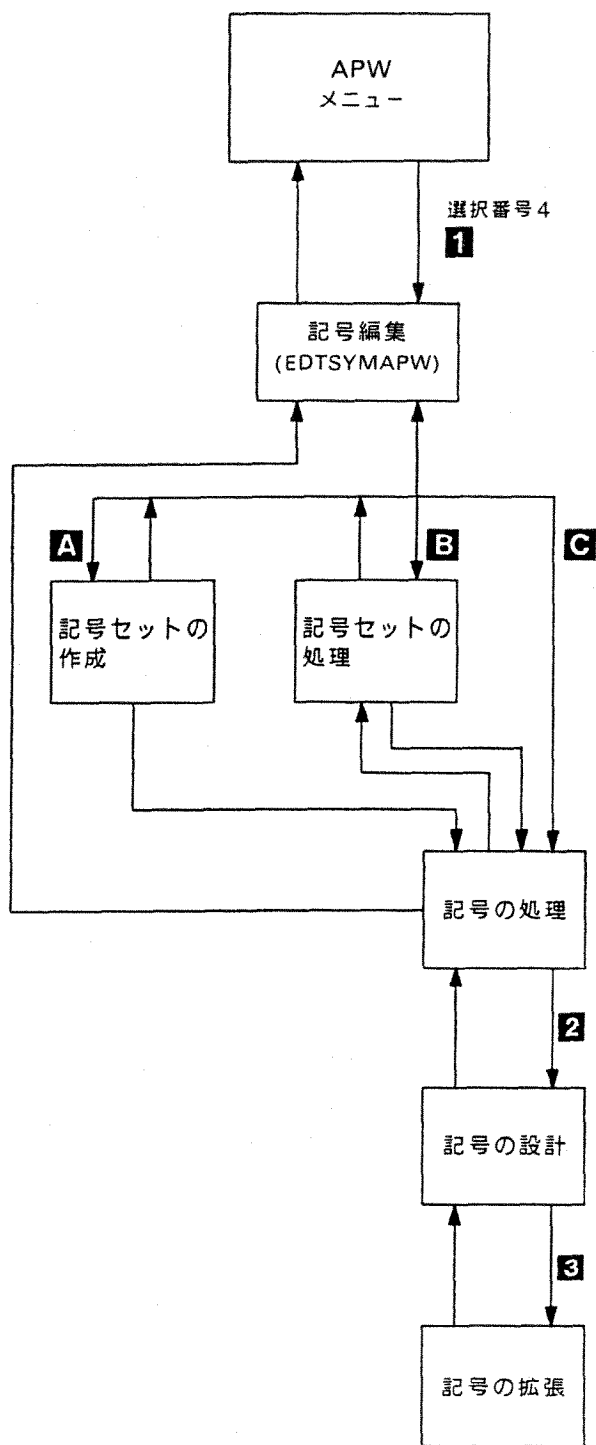


## 第4章 記号の作成と編集

APWでは、ユーザーが独自に設計したロゴ、特殊文字、大型文字などを、記号として管理し、書式と合成して印刷することができます。

## 4.1 機能の流れ



## 機能の流れの説明

- 1** 「APWメニュー」で項目番号4を選択すると、「記号編集(EDTSYMAPW)」プロンプトが表示されます。(コマンド・パラメーターは、最後に設定した値に初期設定されています。) 次の画面の「記号の処理」に進むには、「記号編集(EDTSYMAPW)」プロンプトの記号セット名(SYMSET)に入力されている(またはこれから入力する)値によって、次の3つに分かれます。
  - A** 新しい記号セットを作成する場合は、「記号セットの作成」プロンプトが表示されます。必要事項を入力後、実行キーを押すと記号セットが作成され、「記号の処理」が表示されます。
  - B** 記号セット名(SYMSET)が\*SELECTの場合、「記号セットの処理」が表示されます。一覧表の中から使用する記号セット名の入力フィールドに1をタイプし、実行キーを押すと、「記号の処理」が表示されます。
  - C** 記号セット名(SYMSET)が登録済みの場合は、「記号の処理」が表示されます。
- 2** 「記号の処理」から既存の記号を選択するか、新しい記号を作成すると、「記号の設計」画面が表示されます。
- 3** 「記号の設計」の画面上でF6キーを押すと、「記号の拡張」プロンプトが表示されます。

注: 前の画面に戻るには、F3キーまたはF12キーを押します。また、「記号セットの処理」を経由して「記号の処理」を表示した場合は、F12を押せば、「記号セットの処理」が表示されます。

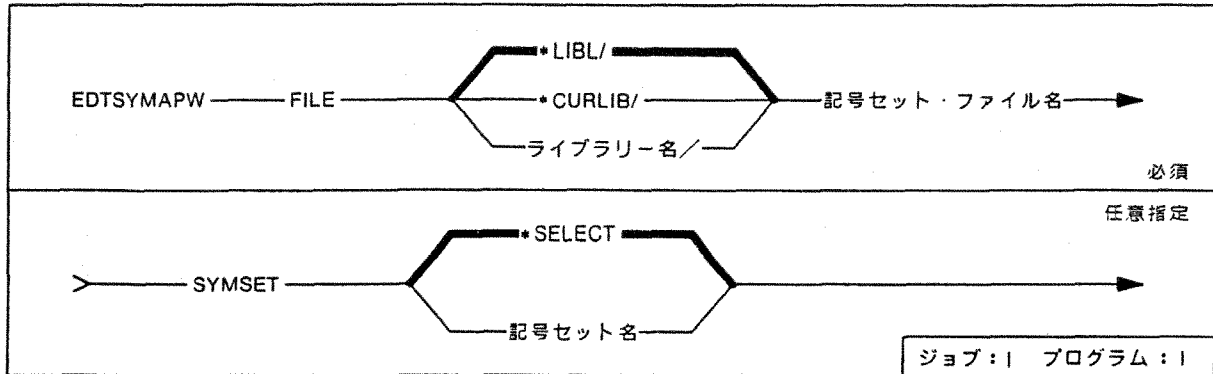
APWは、180PELと240PELの2種類の解像度の記号をサポートしています。(これらの解像度の異なる記号は、同一の記号セット・ファイルに作成することはできません。)「記号セットの処理」、「記号の処理」、「記号の設計」、記号セット・ファイルが存在している場合の「記号セットの作成」画面は、それぞれ処理している記号の解像度に応じて表示されます。例えば「記号セットの処理」では、180PEL記号セットを処理しているときは、「180PEL記号セットの処理」画面が表示されます。なお本書では、特に明示されていない限り、180PEL記号用の画面が例として記載されています。

## 4.2 EDTSYMAPW(記号編集)コマンド

ここでは、EDTSYMAPWコマンド構文図、コマンド・パラメーター、コマンドの入力方法について説明します。

### コマンド構文図

EDTSYMAPWコマンドの構成は、下図に示すとおりです。



### コマンド・パラメーター

以下に、各パラメーターについて説明します。(文中で下線が引かれた値が省略時の値です。)

**FILEパラメーター:**

記号セットを入れるファイル名を入力します。

記号セット・ファイル名:

記号セット・ファイル名は、そのファイルの入っているライブラリーの名前で任意に修飾できます。記号セット・ファイル名が修飾されていない場合は、ライブラリー・リスト(\*LIBL)を使用して、そのファイルを見つけます。記号セット・ファイルが存在しなかったり、記号セット・ファイルに記号セットが存在しない場合は、「記号セットの作成」画面が表示されます。

**SYMSETパラメーター:**

作成、または編集する記号セット名を入力します。

記号セット名:

記号セット名を入力してください。\*SELECTを指定すると、「記号セットの処理」画面が表示されます。

## コマンドの入力

EDTSYMAPWコマンドは、次の方法で入力できます。

- コマンド入力行、またはプログラマー・メニューで項目番号5を選択後、パラメーター付きのコマンド全体を入力する。
- EDTSYMAPWと入力後、F4キーを押してコマンド・プロンプトを要求する。
- 「APWメニュー」で項目番号4を選択してコマンド・プロンプトを要求する。

### コマンド全体の入力例

下図は、コマンド入力行で、すべてのパラメーターの値を含むコマンド全体の入力例を示したものです。

```
MAIN                      AS/400 メイン・メニュー                      システム : XXXXXXXX
次の中から1つを選んでください。

  1. ユーザー・タスク
  2. オフィス・タスク
  3. 汎用システム・タスク
  4. ファイル、ライブラリー、およびフォルダー
  5. プログラミング
  6. 通信
  7. システムの定義または変更
  8. 問題処理
  9. メニューの表示
 10. 情報援助オプション
 11. PC サポート・タスク

 90. サイン・オフ

選択項目またはコマンド
====> EDTSYMAPW FILE(SAMPLEAPS/APWSYMF) SYMSET(SYMSET01)

-----
F3= 終了   F4= プロンプト   F9= コマンドの複写   F12= 取消し   F13= 情報援助
F23= 初期メニューの設定
```

コマンド入力後、実行キーを押してください。

## コマンド・プロンプトによるコマンドの入力

コマンド入力行からEDTSYMAPWと入力後F4キーを押した場合、または「APWメニュー」で項目番号4を選択した場合は、次のプロンプト画面が表示されます。パラメーターの値としては、コマンド入力行などから表示した場合は所定の省略時の値が示され、「APWメニュー」から表示した場合は、最後に使用した値が示されます。

記号編集 (EDTSYMAPW)		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
記号セットファイル	> <u>APWSYMF</u>	名前
ライブラリー	> <u>SAMPLEAPS</u>	名前 , *LIBL, *CURLIB
記号セット	> <u>SYMSET01</u>	名前 , *SELECT

終り

F3= 終了    F4= プロンプト    F5= 再表示    F12= 取消し    F13= この画面の使用法  
F24= キーの続き

必要に応じてパラメーターの値を変更後（変更の必要がない場合はそのまま）、実行キーを押してください。

## 4.3 記号セットの作成

新しい記号セットや記号セットのファイルを作成する場合は、「記号セットの作成」画面が表示されます。

記号セットの作成

ファイル . . . . . : APWSYMF                      ライブラリー . . . . . : SAMPLEAPS

選択項目を打鍵して、実行キーを押してください。

記号セット . . . . . : SYMSET01

ID コードの桁数 . . . . . : 1                      1, 2, 10

テキスト . . . . . : \_\_\_\_\_

ファイル作成時オプション :

記号の解像度 . . . . . : 180                      180, 240

F12= 取消し  
記号セットファイルが作成されます、実行キーを押してください。

上記プロンプトには、次の情報を入力します。

- 記号セット:** 作成する記号セットの名前を入力します。EDTSYMAPWコマンドやプロンプトで入力済みの場合は、その名前が表示されています。記号セットを入れるファイルが存在しない場合、実行キーを押すと、そのファイルが作成される旨のメッセージ(画面最下行)とファイル作成時オプション(テキスト・プロンプトの下)が表示されます。記号セット・ファイルは、APWで作成する必要があります。
- IDコードの桁数:** 記号セットに入れる記号の記号IDコードの長さ(文字数)を入力します。
- 記号がDBCS文字(漢字など)の場合は2を、SBCS文字の場合は1または10を指定してください。  
(「4-10ページの4.5、『記号の指定方法』」を参照。)
- テキスト:** 作成する記号セットについて説明する任意のテキストを入力します。
- ファイル作成時オプション:** 記号セットを入れるファイルが存在しない場合表示されます。
- 記号の解像度** 作成する記号ファイルの解像度をPEL単位を使用して入力します。省略時の値は、180です。

解像度	ドットマトリックスの大きさ (横x縦)
180	18 x 24
240	24 x 32

注:

1. 原始ステートメントによる記号の指定方法(「3-52ページの『SYMBOLパラメーター : 記号の指定』」参照)は、どちらの解像度の記号でも、同じですが、240PEL記号は、書式合成時にDEVTYPE(\*PAGES)を指定したときのみ有効です。
2. 一つの記号ファイルの中に異なる解像度の記号を混在させることはできません。
3. 新しい記号セット・ファイルを作成するにあたって、CRTPF (物理ファイル作成) コマンドとCRTLF (論理ファイル作成) コマンドのコマンド使用権を所有していることが前提となっています。また、新しい記号セットを作成するには、ADDPFM (物理ファイル・メンバー追加) コマンドとADDLFM (論理ファイル・メンバー追加) コマンドの使用権が必要です。詳細は、貴社の機密保護担当者にお問い合わせください。

上記の情報の入力後、実行キーを押すと、「記号の処理」または「DBCS記号の処理」の画面が表示されます。



## 4.4 記号セットの処理

記号セット・ファイル中のすべての記号セットを一覧表で見るとは、「記号編集 (EDTSYMAPW)」プロンプトの記号セット・パラメーターに\*SELECTと入力します。下図のような「記号セットの処理」画面が表示されます。

180PEL 記号セットの処理			
ファイル . . . . . :	APWSYMF	ライブラリー . . . . . :	SAMPLEAPS
記号セット . . . . . :	_____	ID コードの桁数 . . . :	<u>1</u>
テキスト . . . . . :	_____		
オプションを入力し、実行キーを押してください。			
1= 選択 4= 削除 9= 変換			
OPT	記号セット	記号桁	数 テキスト
-	DBCS21	2	1 3 バイトの漢字
-	LOGO	10	2 会社のロゴ
-	SYMSET01	1	3
			終り
パラメーターまたはコマンド			
====>			
F3= 終了 F4= プロンプト F9= コマンドの複写 F12= 取消し			

上記画面で選択可能な項目番号は、以下のとおりです。

- 1= 選択 : 記号セット中の記号リストを表示します。
- 4= 削除 : 記号セット、およびその中の記号をすべて削除します。この機能の使用にあたっては、RMVM (メンバー除去コマンド) の使用権を許可されている必要があります。
- 9= 変換 : 記号セット中に存在する記号を180PELから240PEL記号に変換します。CVTAPWSYMコマンドのプロンプトが表示されます。(詳しくは、「4-23ページの4.9、『CVTAPWSYM(APW記号の変換)コマンド』」を参照してください。このオプションは、記号セット・ファイルが180PEL記号用のとき表示されます。

また、この画面で新しく記号セットを作成することができます。上記プロンプトの上部に記号セットの名前、IDコードの桁数およびテキストを入力後、実行キーを押してください。「記号の処理」または「DBCS記号の処理」の画面が表示されます。

## 4.5 記号の指定方法

### 記号IDの指定方法

ADDAPWコマンドのSYMBOLパラメーターで記号セットを指定することによって、データのある部分を、記号IDで指定することができます。

たとえば、SYMBOLパラメーターで指定された記号セットが使用される用紙上の該当個所に、Aという文字が入っているとします。APWは、そのAを取り出し、それに対応する記号（ドット・パターン）を検索します。その結果、用紙には、そのドット・パターンが印刷されます。

記号セットが使用される場合、APWは次の3つのいずれかから記号IDを取り出します。

- ユーザーのスプール・ファイル（コマンドによる合成出力の場合）
- プログラム内のデータ（ユーザー・プログラムからの合成出力の場合）
- 書式記述原始ステートメント（固定データ）

いずれの場合にも、記号IDは、記号セットから該当のドット・パターンを見つけだすためのキーとして使用されます。

### 記号IDコードの桁数の指定方法

記号IDコードの桁数は、ユーザーのデータから取り出してドット・パターンの検索に使用する文字の数（データのバイト数）を、APWに知らせるためです。たとえば、1バイトの記号IDを使用する場合、APWは、ユーザーのデータ（または書式）から1バイト分を取り出し、記号を検索するためのキーとしてそれを利用します。

記号IDの長さの選択には、次の3つのオプションが提供されています。

- 1バイトのSBCS記号ID(IDコードの桁数は1)

記号の検索のためにユーザーのデータ（または書式）から1バイトを取り出して使用します。たとえば、Iという1文字をIBMのロゴを印刷するのに必要なドット・パターンのキーとして使用します。

- 2バイトのDBCS記号ID(IDコードの桁数は2)

記号の検索のためにユーザーのデータ（または書式）からDBCS文字1文字(2バイト)を取り出して使用します。DBCS記号IDを使用する場合、記号の幅は少なくとも2バイト以上です。

- 1~10バイトのSBCS記号ID(IDコードの桁数は10)

長さが可変の記号IDを使用することも可能です。これにより、最長10バイトまでが検索可能となり、長さが10バイトに満たないコードについては、ブランクによって記号IDの終わりが示されます。

このオプションによって、ほとんど無限に近い数の名前から任意のものを選択して使用することができます。

1~10バイトの記号IDを使用する場合は、記号の幅は、対応する記号IDのバイト数より少なくとも1バイト分大きくなくてはなりません。また、記号IDの中で、先行ブランクや介在ブランクを使用することはできません。

## 4.6 記号の作成と編集

ここでは、新しく記号を作成する方法と、作成後に編集を加える方法について説明します。記号を作成するにあたって、まず「記号の処理」または「DBCS記号の処理」画面を表示させて、必要事項を記入します。これらの画面は、記号作成時の他、作成後に編集する場合にも使用します。

180PEL 記号の処理

記号セット: SYMSET01      ファイル: APWSYMF      ライブラリー: SAMPLEAPS  
記号 ID . . . . .      横 . . . . . 1      縦 . . . . . 1  
テキスト . . . . .

オプションを入力し、実行キーを押してください。  
2= 変更    3= 複写    4= 削除

OPT	記号 ID	横	縦	テキスト
-	A	1	1	マーク A
-	B	2	2	マーク B
-	C	3	3	マーク C

終り

パラメーターまたはコマンド  
====>  
F3= 終了    F4= プロンプト    F9= コマンドの複写    F11= 16進表示    F12= 取消し

**F11:** 16進表示/文字の表示。記号IDの表示を16進、文字と切り換えます。このキーが使用できるのは、IDコードの桁数が1のときのみです。

この画面を表示させるには、次の3つの方法があります。

- 「記号編集(EDTSYMAPW)」プロンプトで、既存の記号セット、ファイル、およびライブラリーの名前を入力する。
- 「記号セットの作成」プロンプトで新しい記号セットの名前を入力する。
- 「記号セットの処理」画面から既存の記号セットを選択するか、新しい記号セットを作成する。

## 記号の作成

記号を新しく作成するには、「記号の処理」または「DBCS記号の処理」画面に以下の情報を入力してください。

- 記号ID:** 作成する記号に対する記号IDで、ブランク以外ならいずれの文字でも使用可。記号IDが2桁の場合は1文字分のDBCSフィールドとなります。
- 横:** 作成する記号の幅（横のサイズ）を桁（バイト）数で指定します。指定できる最大値は20桁です。
- 縦:** 作成する記号の長さ（縦のサイズ）をライン数で指定します。指定できる最大値は15行です。
- テキスト:** 作成する記号を説明する任意のテキストを入力します。

DBCS記号を作成する場合、APWはその初期イメージを、その記号IDの漢字コードが

- 基本文字セットの中にある場合は、DBCSフォント・ファイルから
- 外字の場合は、DBCSフォント・テーブルから

対応するドット・パターンを取り出して表示します。

この場合、どの言語のDBCSフォント・ファイル(DBCSフォント・テーブル)を選択するかは、記号の編集を実行している漢字表示装置のDEVのIGCFEATパラメーターに指定された言語に一致します。その対応は、下表のとおりです。

180 PEL記号:

言語	DBCSフォント・ファイル	DBCSフォント・テーブル
日本語	QCGF2424	QIGC2424
Korean	QCGF2424K	QIGC2424K
Traditional Chinese	QCGF2424C	QIGC2424C
Simplified Chinese	QCGF2424S	QIGC2424S

240 PEL記号:

言語	DBCSフォント・テーブル
日本語	QIGC3232
Simplified Chinese	QIGC3232S

注: APWは、提供されていない、または導入されていないオブジェクトから初期イメージを取り出すことはできません。

## 記号の編集

既存の記号を編集する場合は、

1. 編集する記号を含む「記号の処理」または「DBCS記号の処理」を表示します。
2. その記号の記号IDの左側にある入力フィールドにカーソルを合わせてください。
3. 以下の項目番号のうち、1つを入力してください。

2=変更： 既存の記号の編集

3=複写： 既存の記号を基本にしての新しい記号の作成。この項目番号を選択すると、「記号の設計」画面に既存の記号のドット・パターンが複写されています。したがって、既存の記号に類似した、またはその一部を使えるような記号を作成する場合は、時間を短縮できます。

また、この項目番号を使用するときに、作成する横と縦の大きさ、およびテキストを新たに指定することもできます。指定がない場合、APWは、基本となる既存の記号と同様とみなします。ただし、新しい記号を基本となる記号よりも小さく指定した場合、画面上で一部切り取られて複写されます。項目番号3=複写の機能は、DBCSデータ、SBCSデータともに同様です。

4=削除： 記号の削除。

## 「記号の設計」画面の使い方

新しく記号を作成したり、既存の記号に変更を加えるときは、「記号の設計」画面で行います。この画面は、「記号の処理」または「DBCS記号の処理」画面上に必要な情報を入力後、または項目番号2=変更を選択すると表示されます。「記号の設計」画面は、設計する記号の解像度によって、それぞれ以下のような画面として表示されます。

### 180PEL

180PEL 記号の設計

記号 ID: D	セット: APWSYMF1	ファイル: APWSYMF1	ライブラリ: SAMPLEAPS
制御: _____	横: 8	縦: 3	

01                    02                    03                    04

.....+.....+.....+.....+.....

01  
.  
.  
.  
.  
.  
.  
.  
.  
.  
.

F3= 終了 F6= 拡大 F10 = 保存 F12= 取消し F14= 横反復 F15= 縦反復

## 240PEL

240PEL 記号の設計

記号 ID: D	セット: APWSYMF2	ファイル: APWSYMF2	ライブラリ: SAMPLEAPS
制御: _____	横: 8	縦: 8	

01
02
03

+-----+

01

.

.

.

.

.

.

.

.

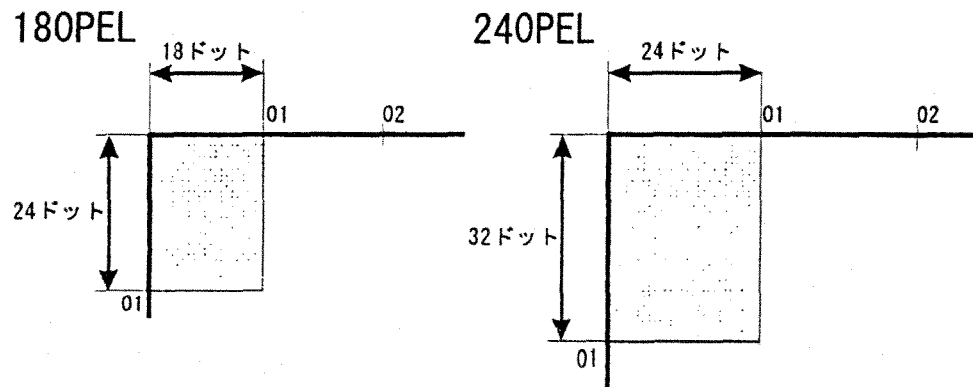
.

.

F3= 終了 F6= 拡大 F10 = 保管 F12= 取消し F14= 横反復 F15= 縦反復

記号の作成・編集は、@マークを「記号の設計」の画面に入力して行います。画面には、上部に目盛が振られており、印刷位置（桁）を示しています。また、左端の縦の目盛は行番号を表しています。

180PEL記号の設計画面には、各印刷桁について18の目盛があり、各行番号ごとに24の目盛があります。また、240PEL記号の設計画面には、各印刷桁について24、各行番号ごとに32の目盛があります。次の図は、記号の解像度とそれに対応するドット・マトリックスの大きさを示します。



「記号の処理」または「DBCS記号の処理」画面で項目番号2=変更または3=複写を指定すると、@マークでドット・パターン化された既存の記号が表示されます。また、DBCS記号を作成する場合、その初期イメージが表示されます。

## 4.7 「記号の設計」画面での各機能

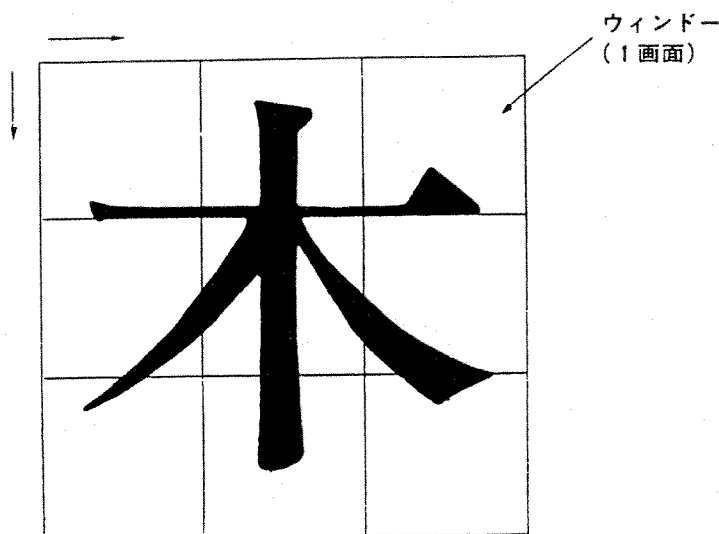
「記号の設計」の画面で使用できる機能は、次の2つに大別されます。

- コマンド・キー

F1~F15キー、Roll↓キー、およびRoll↑キーを使用して、作成中の記号を拡大したり、処理後に保管したりします。

- 画面制御機能

作成する記号が大きく1画面に収まりきれない場合、画面はウィンドー（窓）の役割を果たします。このウィンドーを動かして記号の各部分を見ることができます。画面左上の「制御」と表示されたフィールドがウィンドーの働きを制御しています。このフィールドにコマンドを入力することによってウィンドーを動かし、記号の任意の部分を表示することができます。



### コマンド・キーの機能

各キーには以下の機能が割り当てられています。

**F3キー:** 記号は保管され、前の画面に戻ります。

**F6キー:** 「記号の拡張」画面が表示されます。この画面より記号を指定の大きさに拡大できます。詳しくは、「4-20ページの4.8、『記号の拡張』」を参照してください。

**F10キー:** 処理中の記号を保管し、さらに同じ記号について処理を続けます。

**F12キー:** 前の画面に戻ります。記号は保管されません。

**F14キー:** 1桁内の@マークを横方向に反復（拡張）します。（後述の例を参照。）

**F15キー:** 1行内の@マークを縦方向に反復（拡張）します。（後述の例を参照。）

**Roll↑キー:** 画面を13ドット分繰り上げます。

**Roll↓キー:** 画面を13ドット分繰り下げます。

（「記号の設計」の画面は14行で構成されています。）







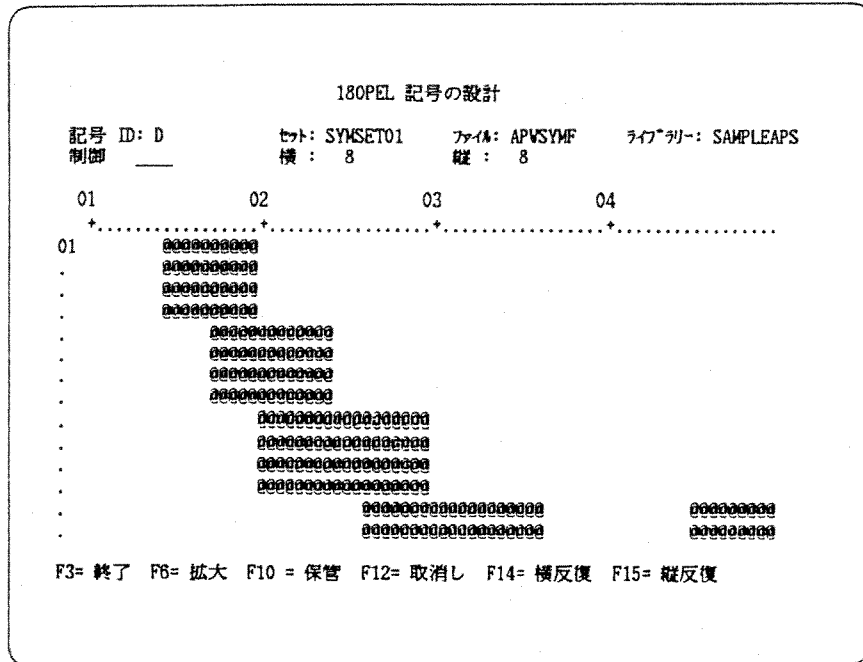
## 制御フィールドへのコマンド入力

制御フィールドを使用する場合は、画面上の1バイト文字が1ドットに相当することに注意してください。

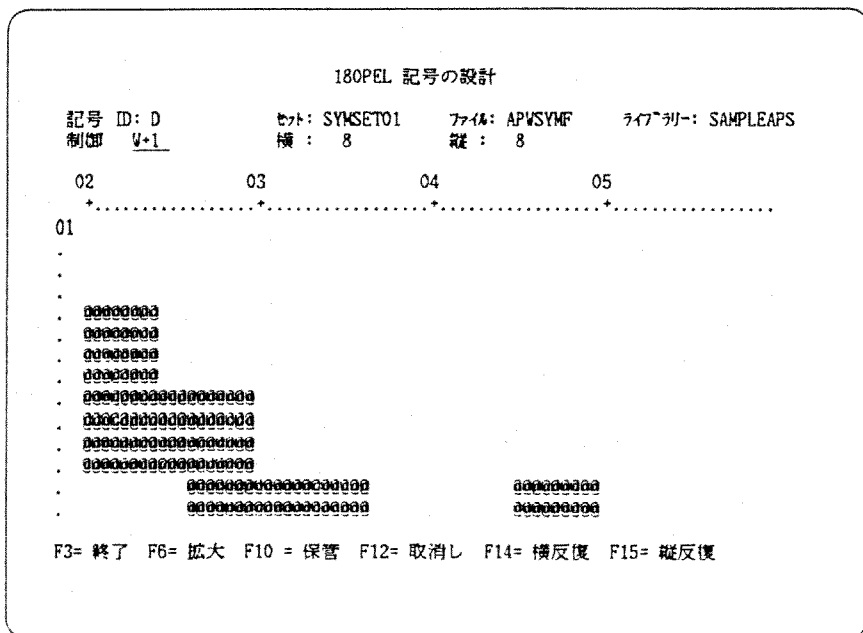
制御フィールド入力可能のコマンドとしては、以下のものがあります。

コマンド	意味
WまたはW+	幅にして、1画面分右側にあるデータを表示します。
W-	幅にして、1画面分左側にあるデータを表示します。
W+n	n桁分右側で始まるデータを表示します。
W-n	n桁分左側で始まるデータを表示します。
Wn	n桁目から始まるデータを表示します。
+n	n行分下で始まるデータを表示します。
-n	n行上で始まるデータを表示します。
n	n行目を画面上の最初の行としてそれ以降のデータを表示します。
R+	7ドット分上に繰り上げます。
R-	7ドット分下に繰り下げます。

下図は、制御フィールドへのコマンドの入力例を示しています。



↓ W + 1



## 4.8 記号の拡張

APWでは、小さな記号を拡張する機能も提供しています。これにより、@マークの入力が少なく済むので、時間が節約できます。この機能を使用するには、「記号の設計」の画面で、F6キーを押してください。次のような「記号の拡張」プロンプトが表示されます。

記号の拡張			
記号 ID . . . . :	XXCAMPANY	記号セット . . . :	LOGO
ファイル . . . . :	APWSYMF	ライブラリー . . :	SAMPLEAPS
横 . . . . . :	20	縦 . . . . . :	15
選択項目を打鍵して、実行キーを押してください。			
横の拡張係数 . . . . . :	<u>2</u>		1-20
縦の拡張係数 . . . . . :	<u>2</u>		1-15
F12= 取消し			

この画面で、記号を拡張することができます。大きさは、記号の大きさの範囲内で指定できます。記号は、左から右、および上から下の方向に拡張されます。また、ブランクも@と同様拡張の対象になります。

拡張係数の指定方法は以下のとおりです。

横の拡張係数: 記号の横方向の拡張に使う値を入力します。たとえば、3を入力すると、拡張前の@マーク1つが、横方向の3つの@となって表示されます。

縦の拡張係数: 記号の縦方向の拡張に使う値を入力します。たとえば、3を入力すると、拡張前の@マーク1つが、縦方向の3つの@となって表示されます。

注: 「記号の処理」または「DBCS記号の処理」画面で指定した範囲を超えて拡張係数を指定すると記号の一部が切り捨てられる場合があります。

以下に、記号の拡張の使用例を示します。

180PEL 記号の設計

```
記号 ID: 記          セット: DBCSSYM3   ファイル: APWSYMF   ライブラリー: SAMPLEAPS
制御    _____  横   :    4         縦   :    3

01          02          03          04
+-----+-----+-----+-----+
01  00
.  00000000  0
.  000000000000
.  0000000000
.  00  00
.  0000000000  00
.  00  00
.  00  00
.  00  00
.  00  00
.  00000000  0  00
.  0000000000  00
.  00  00
.  00000000  00
.  00  00
```

F3= 終了 F6= 拡大 F10 = 保管 F12= 取消し F14= 横反復 F15= 縦反復

↓ 1. F6→「記号の拡張」プロンプト画面

記号の拡張

```
記号 ID . . . . : 記          記号セット . . . : DBCSSYM3
ファイル . . . . : APWSYMF    ライブラリー . . : SAMPLEAPS
横 . . . . . : 4              縦 . . . . . : 3

選択項目を打鍵して、実行キーを押してください。

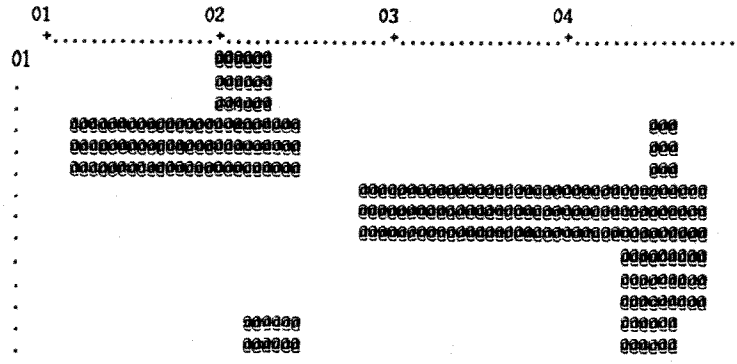
横の拡張係数 . . . . .  3   1-20
縦の拡張係数 . . . . .  3   1-15
```

F12= 取消し

↓ 2. 拡張係数として、横・縦とも3を指定。

180PEL 記号の設計

記号 ID: 記                    セット: DBCSSYM3                    ファイル: APVSYMF                    ライブラリ: SAMPLEAPS  
 制御                    横 : 4                    縦 : 3

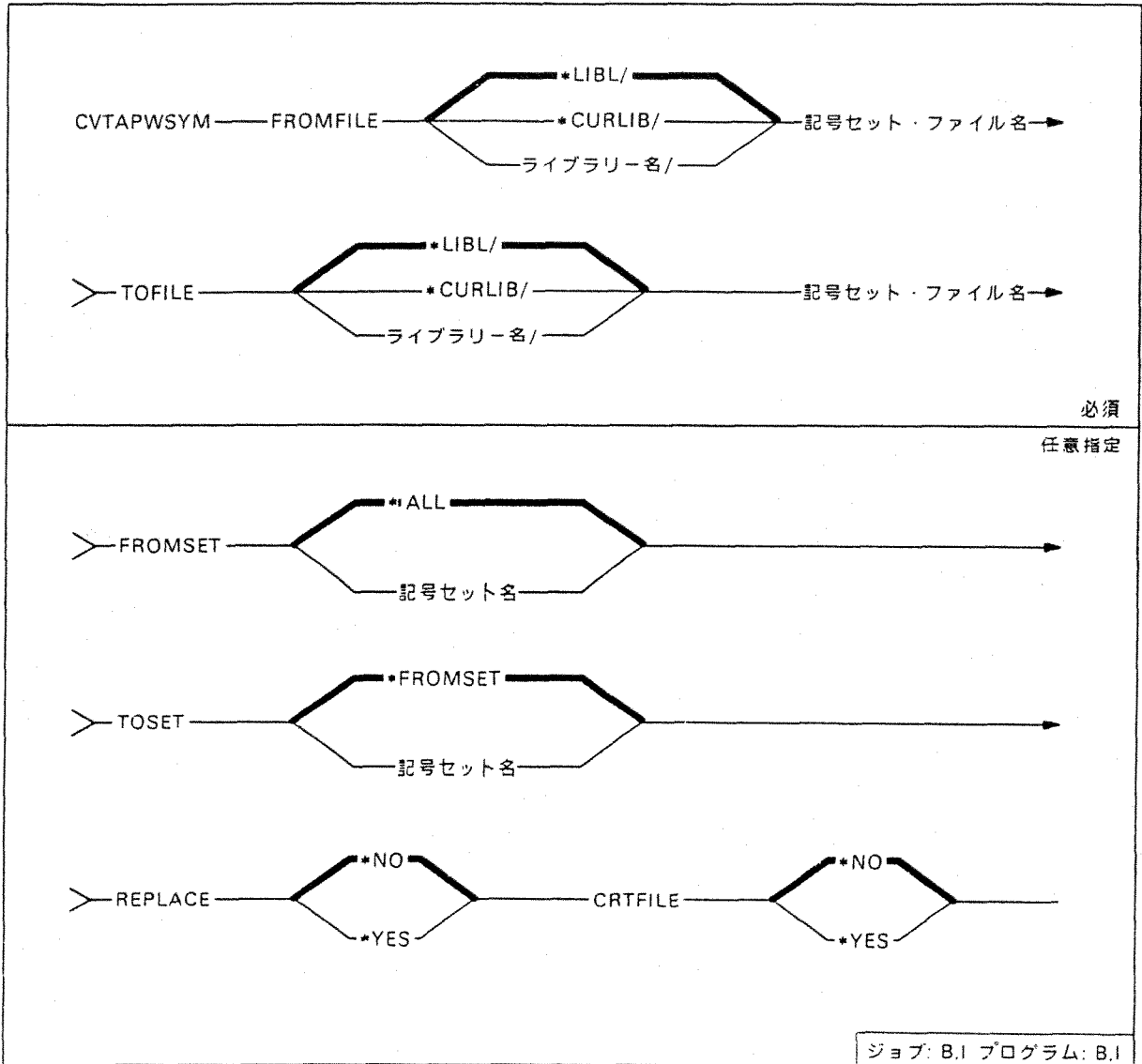


F3= 終了    F6= 拡大    F10 = 保管    F12= 取消し    F14= 横反復    F15= 縦反復

## 4.9 CVTAPWSYM(APW記号の変換)コマンド

このコマンドを使用して、既存の180PEL記号を240PEL記号に変換することができます。変換は、記号セット単位で行われます。指定された記号セット内のすべての記号が変換され、新しくコマンドによって作成された記号セットに保管されます。

### コマンド構文図



## コマンド・パラメーター

ここでは、構文図に出ているコマンド・パラメーターについて説明します。(文中で下線が引かれた値が省略時の値です。)

**FROMFILE**パラメーター： 変換したい記号セットが入っている記号セット・ファイル名を指定します。

記号セット・ファイル名： 240PELの記号セットに変換したい180PELの記号セットを含んでいる記号セット・ファイルの名前を指定します。

記号セット・ファイル名がライブラリー名で修飾されていない場合、APWは、ライブラリー・リスト(\*LIBL)を使用してファイルを見つけます。

**TOFLIE**パラメーター： 変換された記号セットを保管する記号セット・ファイル名を指定します。

記号セット・ファイル名： 変換された240PELの記号セットを保管する240PEL用の記号セット・ファイルの名前を指定します。

記号セット・ファイル名がライブラリー名で修飾されていない場合、APWは、ライブラリー・リスト(\*LIBL)を使用してファイルを見つけます。

**FROMSET**パラメーター： 変換したい記号セット名を指定します。

\*ALL

FROMFILEパラメーターで指定された記号セット・ファイル内のすべての180PEL記号セットを変換することを示します。

記号セット名： 240PELの記号セットに変換したい180PELの記号セットの名前を指定します。

**TOSET**パラメーター： 変換によって新しく作成される記号セット名を指定します。FROMSETパラメーターで\*ALLが指定されている場合には、\*FROMSETが指定されなければいけません。

\*FROMSET：

新しく作成される240PELの記号セット名は、変換元の180PEL記号セットと同じ名前であることを示します。

記号セット名： 変換によって新しく作成される240PELの記号セット名を指定します。

**REPLACE**パラメーター： すでに存在している同一名の記号セットを変換によって新しく作成される記号セットで置き換えるかどうかを指定します。

\*NO：

既存の記号セットは、置き換えられません。同一名の記号セットがすでに存在している場合には、変換は行なわれません。

\*YES：

既存の記号セットは、変換によって新しく作成される記号セットで置き換えられます。

**CRTFILE**パラメーター： TOFILEパラメーターで指定された記号セット・ファイルが存在しない場合記号セット・ファイルを作成するかどうかを指定します。

\*NO：

記号セット・ファイルは作成されません。TOFILEパラメーターで指定された記号セット・ファイルが存在しない場合、変換処理は中止されます。



\*YES : TOFILEパラメーターで指定された記号セット・ファイルが存在しない場合記号セット・ファイルを作成することを指定します。この場合、TOFILEパラメーターにはライブラリー名が指定されていなければなりません、省略時の値\*LIBLは使用できません。

## コマンドの入力

CRTAPWSYMコマンドの入力方法には、いくつかの方法があります。

- コマンド入力行、またはプログラマー・メニューで項目番号5を選択後、パラメーター付きのコマンド全体を入力する。
- コマンド名を入力後、F4キーを押して、コマンド・プロンプト画面を表示し、パラメーターの値を入力する。
- 「APWメニュー」で項目番号5を選択して、コマンド・プロンプト画面を表示しパラメーターの値を入力する。

次にコマンド・プロンプト画面の例を示します。

APW 記号の変換 (CVTAPWSYM)		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
FROM 記号セットファイル . . . . .	<u>SYMFILE1</u>	名前
ライブラリー . . . . .	<u>*LIBL</u>	名前 , *LIBL, *CURLIB
TO 記号セットファイル . . . . .	<u>SYMFILE2</u>	名前
ライブラリー . . . . .	<u>*LIBL</u>	名前 , *LIBL, *CURLIB
FROM 記号セット . . . . .	<u>*ALL</u>	名前 , *ALL
TO 記号セット . . . . .	<u>*FROMSET</u>	名前 , *FROMSET
記号セットの置き換え . . . . .	<u>*NO</u>	*YES, *NO
ファイル作成 . . . . .	<u>*NO</u>	*YES, *NO

終り

F3= 終了    F4= プロンプト    F5= 再表示    F12= 取消し    F13= この画面の使用法  
F24= キーの続き

---

## 4.10 記号セット・ファイルの削除

ある記号セット・ファイルおよびそのファイルに含まれるすべての記号を削除するには、コマンド入力画面でDLTF（ファイル削除）コマンドを使用します。記号セット・ファイルは1つの論理ファイルと複数の物理ファイルで構成されているため、これらのファイルをすべて削除する必要があります。論理ファイルの名前は記号セット・ファイルの名前と同じですが、物理ファイルの名前は異なります。したがって、DLTFコマンドを使用する前に、DSPFD（ファイル記述表示）コマンドにより物理ファイルの名前を見つけ出す必要があります。

なお、DLTFコマンドを使用するには、使用権を所有していることが前提ですので、貴社の機密保護担当者にお問い合わせください。また、DLTFコマンドの詳細については、『AS/400 CL（制御言語）解説書 V3』、SC88-5339を参照してください。